

補天醫院

A black and white photograph showing a close-up of a wall. At the top, there is a decorative border or molding. Below it, a small, dark, rectangular object, possibly a switch or a small plaque, is mounted on the wall. The wall itself has a textured, slightly mottled appearance.

所  
地  
番

心行  
心行







## 闇のソ聯」の姿

「黒龍江の對岸」といふだけでも八百里を隔てて露國シベリア鐵道敷設に對して建設した赤旗の街「ブラゴエ」がある。ブラゴエは黒龍江とゼラヤ河の合流に根を張つてロシア的、強強な色彩を散放つて、エゾタタタな味を纏つて追つて来る。

八口十萬を超えるこの地方第一の都會である。河岸に散兵線とびいたなやうに廣大な兵營と、一面の丘陵地帯のトーチカに陣敷いた様に見える大建物が、かめしき雄偉たるものが見えられ、か、如何に底力なく、至つて淋しげに見える、丁度、空襲にたへ兼ねた路傍に行倒れかとする日本人の姿をつくりだす。事實、ブラゴエの物の不足な程及びに困窮状態は喧傳されてゐる。以上で居る者ゝ萬人の内分の一は失業者であり、昨冬のドン底時代の食料品切符給付制度は漸く解消せられ

たとふは云へ現在の一般労働者の収入が一個月四十金、これ對して物價萬金、この邊に靴一足か井筒と、いのだから働かんとすれば暮く、働かぬ働かぬでなれば腹を満し得るの生地獄シベリア一帶の窮乏困窮の勞働者民階級の苦悶が殆ど知れぬ。

小鉄黒河航政分局長の話にもこの間ブラゴエから黒河岸に漂流して來た破船に殘つたワオツカカの測定に價中味三匁、燐代五十匁、キルタ代

# 家庭防空の立場

歩兵第3佐隊久原久氏は昨午  
2時新放防空隊から午後五  
時の如き、誘爆放逐に左後  
私は毎期出動の途中小學校に  
通小さし無邪子共子供達を  
みかねて又一時して可愛  
い赤ちやんを置いて居られ  
る御師匠方等とをるにつけ何  
時々の等の子供達の家庭では  
どれ位の防空演習が出来て  
るにまさか其の時に敵機  
の襲撃に對して可愛い子供達  
に十分な保護をうてやれる  
やうになつたのであらうか  
といふやうなところしみに

きこと  
の二方面に分けて考へるの  
を至當とするのであります  
一、進んで敵の飛行根據地を  
攻撃せしめる  
二、全國に對し對空監視の網  
を張り、更に對空司令部か  
ら發せられた警報に照らな  
く必要警報を國民に知らせる  
三、燈火管制や偽裝を行つて  
敵の飛行機對地上の目標  
を見えなくし、操縦に於て  
斯ういふ事柄何れも國內全  
地に亘つて徹底的に行はね  
ばならぬ事柄であります  
一、御師匠の防空飛行隊や高  
れど已に獲得す爆彈を捨て  
て敵機を撃破せしむる  
ので斯様な地域に住む人と  
は出来なせん古い話であ  
りませんが世界大戦の終  
に海軍は華に多し、時  
空要は遂にドイツ空軍の  
近頃の情勢に對する官制の  
一機は遂にドイツ空軍の  
空軍は華に多し、時  
空要は遂にドイツ空軍の  
近頃の情勢に對する官制の  
一機は遂にドイツ空軍の

の防空を實施して居た  
折弁の接近までが、恐ろ  
せに侵入することが出来  
た。機長の空軍中佐、  
大部分引返したのであり

來る二十四日から

奉天 第一次 八月六日、八日、十四日、十五日、廿五日  
 第二次 九月十六日、十七日、十八日、十九日、廿四日、廿五日  
 第三次 十月十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、廿四日、廿五日  
 第四次 十一月十一日、十二日、十三日、十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、廿四日、廿五日

上昇、これを

に示した、も

「泰西酒吞童子」の秘法  
たが、最近の全米科學協  
いふ譯でなく  
まで高めて見

酒の毒消しには砂糖が第一 實驗に成功し、

いふ話だ、先づ鼠に實驗  
注射で血液中の糖分を  
その實驗は鼠  
が、人間にも

（附）公共機關と家庭と

承知の通り防空官は官民兼務のことに始まつたのである。これを遂行することが出来るのは、家庭者その他の機關の關係者も誰々であるから、そこで防諜目録は、たとへばある譯で、以下に等々ある譯で、毎日にその概要を申上る。

第一 燈火管制

第二は敵の飛行機に目録

買ひ具體な購服から、これを御覧になつてきてゐる。

(二) 偽装

第二に敵機が上空から目立つやうに工物目立たないことと必要であり等々上空から見る所有してゐる自分、實施すべき。

証々の仕事かと申しますから、この點一般市

これは色々な種や火焔の他の光の持主、使主と  
 秋季第一次競馬 来る二十四日か  
 新行はれる  
 京 奉 天  
 第一次 七月十四日、二  
 第二次 七月十六日、二  
 第三次 七月十八日、二  
 第四次 七月二十日、二  
 第五次 七月二十二日、二  
 第六次 七月二十四日、二  
 第七次 七月二十六日、二  
 第八次 七月二十八日、二  
 第九次 七月三十日、二  
 第十次 八月一日、二  
 第十一次 八月三日、二  
 第十二次 八月五日、二  
 第十三次 八月七日、二  
 第十四次 八月九日、二  
 第十五次 八月十一日、二  
 第十六次 八月十三日、二  
 第十七次 八月十五日、二  
 第十八次 八月十七日、二  
 第十九次 八月十九日、二  
 第二十次 八月二十一日、二  
 第二十一次 八月二十三日、二  
 第二十二次 八月二十五日、二  
 第二十三次 八月二十七日、二  
 第二十四次 八月二十九日、二  
 第二十五次 八月三十一日、二  
 第二十六次 九月初一日、二  
 第二十七次 九月初三日、二  
 第二十八次 九月初五日、二  
 第二十九次 九月初七日、二  
 第三十次 九月初九日、二  
 第三十一次 九月十一日、二  
 第三十二次 九月十三日、二  
 第三十三次 九月十五日、二  
 第三十四次 九月十七日、二  
 第三十五次 九月十九日、二  
 第三十六次 九月二十一日、二  
 第三十七次 九月二十三日、二  
 第三十八次 九月二十五日、二  
 第三十九次 九月二十七日、二  
 第四十次 九月二十九日、二  
 第四十一次 九月三十一日、二  
 第四十二次 十月初一日、二  
 第四十三次 十月初三日、二  
 第四十四次 十月初五日、二  
 第四十五次 十月初七日、二  
 第四十六次 十月初九日、二  
 第四十七次 十月十一日、二  
 第四十八次 十月十三日、二  
 第四十九次 十月十五日、二  
 第五十次 十月十七日、二  
 第五十一次 十月十九日、二  
 第五十二次 十月二十一日、二  
 第五十三次 十月二十三日、二  
 第五十四次 十月二十五日、二  
 第五十五次 十月二十七日、二  
 第五十六次 十月二十九日、二  
 第五十七次 十月三十一日、二  
 第五十八次 十一月初一日、二  
 第五十九次 十一月初三日、二  
 第六十次 十一月初五日、二  
 第六十一次 十一月初七日、二  
 第六十二次 十一月初九日、二  
 第六十三次 十一月十一日、二  
 第六十四次 十一月十三日、二  
 第六十五次 十一月十五日、二  
 第六十六次 十一月十七日、二  
 第六十七次 十一月十九日、二  
 第六十八次 十一月二十一日、二  
 第六十九次 十一月二十三日、二  
 第七十次 十一月二十五日、二  
 第七十一次 十一月二十七日、二  
 第七十二次 十一月二十九日、二  
 第七十三次 十一月三十一日、二  
 第七十四次 十二月初一日、二  
 第七十五次 十二月初三日、二  
 第七十六次 十二月初五日、二  
 第七十七次 十二月初七日、二  
 第七十八次 十二月初九日、二  
 第七十九次 十二月十一日、二  
 第八十次 十二月十三日、二  
 第八十一次 十二月十五日、二  
 第八十二次 十二月十七日、二  
 第八十三次 十二月十九日、二  
 第八十四次 十二月二十一日、二  
 第八十五次 十二月二十三日、二  
 第八十六次 十二月二十五日、二  
 第八十七次 十二月二十七日、二  
 第八十八次 十二月二十九日、二  
 第八十九次 十二月三十一日、二  
 第九十次 元月初一日、二  
 第九十一次 元月初三日、二  
 第九十二次 元月初五日、二  
 第九十三次 元月初七日、二  
 第九十四次 元月初九日、二  
 第九十五次 元月十一日、二  
 第九十六次 元月十三日、二  
 第九十七次 元月十五日、二  
 第九十八次 元月十七日、二  
 第九十九次 元月十九日、二  
 第一百次 元月二十一日、二  
 第一百零一次 元月二十三日、二  
 第一百零二次 元月二十五日、二  
 第一百零三次 元月二十七日、二  
 第一百零四次 元月二十九日、二  
 第一百零五次 元月三十一日、二  
 第一百零六次 元月初一日、二  
 第一百零七次 元月初三日、二  
 第一百零八次 元月初五日、二  
 第一百零九次 元月初七日、二  
 第一百一十次 元月初九日、二  
 第一百一十一次 元月十一日、二  
 第一百一十二次 元月十三日、二  
 第一百一十三次 元月十五日、二  
 第一百一十四次 元月十七日、二  
 第一百一十五次 元月十九日、二  
 第一百一十六次 元月二十一日、二  
 第一百一十七次 元月二十三日、二  
 第一百一十八次 元月二十五日、二  
 第一百一十九次 元月二十七日、二  
 第一百二十次 元月二十九日、二  
 第一百二十一次 元月三十一日、二  
 第一百二十二次 元月初一日、二  
 第一百二十三次 元月初三日、二  
 第一百二十四次 元月初五日、二  
 第一百二十五次 元月初七日、二  
 第一百二十六次 元月初九日、二  
 第一百二十七次 元月十一日、二  
 第一百二十八次 元月十三日、二  
 第一百二十九次 元月十五日、二  
 第一百三十次 元月十七日、二  
 第一百三十一次 元月十九日、二  
 第一百三十二次 元月二十一日、二  
 第一百三十三次 元月二十三日、二  
 第一百三十四次 元月二十五日、二  
 第一百三十五次 元月二十七日、二  
 第一百三十六次 元月二十九日、二  
 第一百三十七次 元月三十一日、二  
 第一百三十八次 元月初一日、二  
 第一百三十九次 元月初三日、二  
 第一百四十次 元月初五日、二  
 第一百四十一次 元月初七日、二  
 第一百四十二次 元月初九日、二  
 第一百四十三次 元月十一日、二  
 第一百四十四次 元月十三日、二  
 第一百四十五次 元月十五日、二  
 第一百四十六次 元月十七日、二  
 第一百四十七次 元月十九日、二  
 第一百四十八次 元月二十一日、二  
 第一百四十九次 元月二十三日、二  
 第一百五十次 元月二十五日、二  
 第一百五十一次 元月二十七日、二  
 第一百五十二次 元月二十九日、二  
 第一百五十三次 元月三十一日、二  
 第一百五十四次 元月初一日、二  
 第一百五十五次 元月初三日、二  
 第一百五十六次 元月初五日、二  
 第一百五十七次 元月初七日、二  
 第一百五十八次 元月初九日、二  
 第一百五十九次 元月十一日、二  
 第一百六十次 元月十三日、二  
 第一百六十一次 元月十五日、二  
 第一百六十二次 元月十七日、二  
 第一百六十三次 元月十九日、二  
 第一百六十四次 元月二十一日、二  
 第一百六十五次 元月二十三日、二  
 第一百六十六次 元月二十五日、二  
 第一百六十七次 元月二十七日、二  
 第一百六十八次 元月二十九日、二  
 第一百六十九次 元月三十一日、二  
 第一百七十次 元月初一日、二  
 第一百七十一次 元月初三日、二  
 第一百七十二次 元月初五日、二  
 第一百七十三次 元月初七日、二  
 第一百七十四次 元月初九日、二  
 第一百七十五次 元月十一日、二  
 第一百七十六次 元月十三日、二  
 第一百七十七次 元月十五日、二  
 第一百七十八次 元月十七日、二  
 第一百七十九次 元月十九日、二  
 第一百八十次 元月二十一日、二  
 第一百八十一次 元月二十三日、二  
 第一百八十二次 元月二十五日、二  
 第一百八十三次 元月二十七日、二  
 第一百八十四次 元月二十九日、二  
 第一百八十五次 元月三十一日、二  
 第一百八十六次 元月初一日、二  
 第一百八十七次 元月初三日、二  
 第一百八十八次 元月初五日、二  
 第一百八十九次 元月初七日、二  
 第一百九十次 元月初九日、二  
 第一百九十一次 元月十一日、二  
 第一百九十二次 元月十三日、二  
 第一百九十三次 元月十五日、二  
 第一百九十四次 元月十七日、二  
 第一百九十五次 元月十九日、二  
 第一百九十六次 元月二十一日、二  
 第一百九十七次 元月二十三日、二  
 第一百九十八次 元月二十五日、二  
 第一百九十九次 元月二十七日、二  
 第二百次 元月二十九日、二  
 第二百零一次 元月三十一日、二  
 第二百零二次 元月初一日、二  
 第二百零三次 元月初三日、二  
 第二百零四次 元月初五日、二  
 第二百零五次 元月初七日、二  
 第二百零六次 元月初九日、二  
 第二百零七次 元月十一日、二  
 第二百零八次 元月十三日、二  
 第二百零九次 元月十五日、二  
 第二百一十次 元月十七日、二  
 第二百一十一次 元月十九日、二  
 第二百一十二次 元月二十一日、二  
 第二百一十三次 元月二十三日、二  
 第二百一十四次 元月二十五日、二  
 第二百一十五次 元月二十七日、二  
 第二百一十六次 元月二十九日、二  
 第二百一十七次 元月三十一日、二  
 第二百一十八次 元月初一日、二  
 第二百一十九次 元月初三日、二  
 第二百二十次 元月初五日、二  
 第二百二十一次 元月初七日、二  
 第二百二十二次 元月初九日、二  
 第二百二十三次 元月十一日、二  
 第二百二十四次 元月十三日、二  
 第二百二十五次 元月十五日、二  
 第二百二十六次 元月十七日、二  
 第二百二十七次 元月十九日、二  
 第二百二十八次 元月二十一日、二  
 第二百二十九次 元月二十三日、二  
 第二百三十次 元月二十五日、二  
 第二百三十一次 元月二十七日、二  
 第二百三十二次 元月二十九日、二  
 第二百三十三次 元月三十一日、二  
 第二百三十四次 元月初一日、二  
 第二百三十五次 元月初三日、二  
 第二百三十六次 元月初五日、二  
 第二百三十七次 元月初七日、二  
 第二百三十八次 元月初九日、二  
 第二百三十九次 元月十一日、二  
 第二百四十次 元月十三日、二  
 第二百四十一次 元月十五日、二  
 第二百四十二次 元月十七日、二  
 第二百四十三次 元月十九日、二  
 第二百四十四次 元月二十一日、二  
 第二百四十五次 元月二十三日、二  
 第二百四十六次 元月二十五日、二  
 第二百四十七次 元月二十七日、二  
 第二百四十八次 元月二十九日、二  
 第二百四十九次 元月三十一日、二  
 第二百五十次 元月初一日、二  
 第二百五十一次 元月初三日、二  
 第二百五十二次 元月初五日、二  
 第二百五十三次 元月初七日、二  
 第二百五十四次 元月初九日、二  
 第二百五十五次 元月十一日、二  
 第二百五十六次 元月十三日、二  
 第二百五十七次 元月十五日、二  
 第二百五十八次 元月十七日、二  
 第二百五十九次 元月十九日、二  
 第二百六十次 元月二十一日、二  
 第二百六十一次 元月二十三日、二  
 第二百六十二次 元月二十五日、二  
 第二百六十三次 元月二十七日、二  
 第二百六十四次 元月二十九日、二  
 第二百六十五次 元月三十一日、二  
 第二百六十六次 元月初一日、二  
 第二百六十七次 元月初三日、二  
 第二百六十八次 元月初五日、二  
 第二百六十九次 元月初七日、二  
 第二百七十次 元月初九日、二  
 第二百七十一次 元月十一日、二  
 第二百七十二次 元月十三日、二  
 第二百七十三次 元月十五日、二  
 第二百七十四次 元月十七日

十六日 十月一日 二日 哈爾濱

ス

ルコロ、致死量は二、三割位  
これを千分の二に減  
一、致死量は六割乃至九割  
に對する毒酒  
染著したるもの、如實  
した、もつとも砂糖  
増加はする程と  
増えれば、糖分量と  
高のものと見られ  
て、限度があつたこ  
ろ、其の結果を

が、飲み難す、でも  
ふ御仁はお子にう  
て出掛ければ、先づ  
ひなし

電気解醇法益  
「モスチの解法」  
人の體の解毒がソ  
の若、徒徒Gカレン  
の實驗には、完成さ  
れたるに、試み  
の成功、收め、たが  
及び電氣の基に  
先づ電氣の毒酒を  
通したる、結は、全  
く無

人間にも全く同様な反應、成功を得た、教授自身

報告によれば、電紙が

▲第二次 九月四日、五日、

[illegible]

△第十

[illegible]

〇〇、搖彩 1 一五五圓七〇

といふ。奥へは、  
動機  
によつて、  
教授  
初級  
には、  
上下  
たな

と顔に輕微な疼痛を覺えたと共に頭皮が後方に縮められるやうな感がありしが、時に視力が衰へる思ひがし、眼罩にて行くと、やがて眼閉られて、完全な麻痺状態に入るが電流が切斷されたときこの麻痺は急速に去りしかゝ作用も全く残さない。人體に無害なる點に於て麻痺の完全なる點に於て、麻痺時間の短長程度が急進と回復の速慢に於て從來の麻痺方法より同日の説でなく隣接するに生命を起すだらうといはれてゐる。

通事故となつたカナダ街道に正銅鋼馬路マールウ通規則の方の妙方一體は「一名開」マールウ君はモヤロハニすか」こ

「コリンダウツド（オンカリ  
し偶然の

ふ永い間御互ひに行方不明になつてつゝた兄弟が偶然にも交れて行つ

二分四六秒二) 2  
3 滿鮮、配當一單

[illegible]

馬(八頭、二、四)

元三分五秒三  
 七、武藏威靈  
 六、八幡四〇、復一六  
 七、八幡八〇、三二  
 八、掩殺票一八九六  
 九、二五六八〇〇〇  
 十、面〇〇、等外六四  
 五、二、〇〇  
 六、五頭、二、〇〇  
 七、分五二秒二、二  
 八、山、陣常一單二  
 九、復一〇圓〇〇  
 十、掩殺票一四〇  
 四、二〇〇六圓八  
 五、四圓五〇  
 六、賣上成績  
 七、三〇、三〇五圓  
 八、三〇、五五五圓  
 九、三〇、五五五圓

六二一、三七五圓

會、購轉して福  
タリオ州の重なる  
自家用自動車か、  
片方のジョーン  
怒鳴る「君は交  
ないのかッ」他  
れはそうだが大  
下を出し過ぎた  
ひ給へ」といふ  
僕はタロイド  
「アッだ、お  
「アッ兄さんで  
「アッ家さんで

大讀物  
八月  
部

は神の引合せと

て弟を自宅へ通  
である

[illegible]







いまだ珍らしい種類の狢ひではあるが、  
のやうに鬱陶しい。(多々羅重弘)

王 誰かッ  
張 祖父母役員の周郎成だッ  
王 よし、おい周郎成を呼べッ  
ツ  
「(ト一人立ちて行く、  
受けの覺土、王のめくけはを  
使つて鏡を飾るにせぬ。……だ  
王 驚いて立つたが、……」  
張 三強はこれと父の顔の主人ノ  
だと白黒したぞ  
周 エーッ、そんな  
周 事實カ  
周 そうで無茶な丁儀ヲ知ら  
ない、張子林妹をねえッ  
張 ワウ、張子林を吐へッ  
周 ゴロツキ奴。  
張 周郎成頭来た、電ッ、響

ひ生を叫び、そして突つて来  
たの鏡、これおらのその顔だ  
夜光に照らす髪毛を生温る  
不機にもつまづ  
身を構へても、いかに思慕た  
うそのだけ酔ひしれてうた  
つて  
痴れたらわなか、笑の合ひ

人を雇はれるなら  
 本會へ  
 東三馬路樺太地下  
 鐵(2)一〇五  
 自置會本部(金井)  
 電話(四四五三番)  
 電話(四四五三番)

温泉料理

御安全  
 料理相談

銅  
九  
金  
銀

あんま

高橋治療所

新市

質

夏  
日  
豊  
盛  
三  
廿  
四  
日  
開  
張

新聞の御申込は  
入買券債  
**融金**  
通漢社神地  
重慶3  
二八七五  
會商

大連市大山道  
佐野洋行  
電話 〇四六〇一番





## 眼病の誘因は 強烈な外光

—前眼部に起る激しい炎症—  
眼の保護と手當法

眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。

手當としては、眼病の予防に非常に重要である。眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。

## 明眸は眼の衛生に無関係



眼の衛生は、眼病の予防に非常に重要である。眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。

眼の衛生は、眼病の予防に非常に重要である。眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。

## 上級生級の近視

近視は、眼病の一種である。眼病の誘因は、強烈な外光である。これは、前眼部に起る激しい炎症である。眼の保護と手當法は、眼病の予防に非常に重要である。

# 眼の疲労が最も能力を妨げる



一線一劃も忽かに出来ない精密な仕事や細かい事務は想像以上に眼を疲れさせ、果ては眼疾や神経衰弱の誘因となります。

眼の疲労は、視神経の關係から、脳細胞に影響します。その結果、眼の疲労は、視神経の關係から、脳細胞に影響します。その結果、眼の疲労は、視神経の關係から、脳細胞に影響します。

眼の疲労を防止する

# ルイマス

店商置玉 社合式株 町瓦區東阪大・町本區橋本日京東 店理、總 りあに部品薬店貨百店薬・錢五十四・錢五十二 (價定)



莊

八番

メガネは  
岡田眼鏡  
専門店へ

東二条通青陽ビル階 電3-2483

謹告

長男紹綱當四十八歲儀客月上旬以來罹病改換各科  
大學附屬病院等に於て加療中の處藥石効無く十日午  
後四時長逝致候に付辱知各位に謹告致候

追而同人は己に弱冠にして舊疾に罹り爾來奉天の自宅に體康生活を續け來  
りたる關係上親候等も奉天に於て家族のみにて極めて内輪に可憐營に付乍  
爾手御悼問は勿論供花御香奠等の儀は堅く御辭退申上候

康徳四年七月十日

新京特別市自疆街十七號

父張景惠

醫學士 田中清美

(新京東三條通領事館前)

電話(三)五六〇六番



(百四十九)

[illegible]

空の一方へ僅かに傘ばかりの怪しい雲が現れたら、**瞬間的に**水面は大きくて掃きで隠ります。ウツカリして居る一面を流した様な美風雨になりますから、皮膚病も始めぬが小さいが、融解してゐるとダンク裏が且多くの近

[illegible]

効力本位

特長

シマズ、痛ます  
目に立たず、臭  
ず、汚れぬその  
に微菌を發し毒  
汚し人傳自然に  
つた疾病自癒の  
用を發けてその  
有の効驗を顯す

●迷信打破  
●毒を油断と誤  
て見ないない、毒  
の害に處つて居る人  
の多く、眼病を治す  
とれたデ、眼病を  
とつたは眼に

● しらくも ● はたけ ● なまず ● 瀧  
● 火出物 ● がんがさ ● くさおで ● 湯  
● かゆがり ● 唇門門のただれ ● とび  
● にきび ● そはかす ● ただれ ● 頭へ  
● 髪かぶれ ● 髪かぶれ ● 頸紋 ● ぶと ● 陰部 ● 皮膚病

毛はえ薬フミンサイン

[illegible]

科學的に若さと美を創る



ホルモンが服から吸収され  
 若さ・美まづくり、顔や  
 るみを防ぐと云ふ……ホル  
 モン美容学院が第三十五  
 回婦人科学大会席上で更に  
 開設されたのです。

美容の大家や皮膚科の權威が御座るお客様に出来、最も効果的な若返り法と、薬用クラブ美容クリームによるホルモンの塗布療法です。薬用クラブ美容クリームがめきめき、若返り効果の實績を擧げてゐるのも道理。極めて強度の綜合ホルモンを吸収し、助長細胞の力や皮膚の深部に吸収され、細胞組織に活力を與へてシワやタルミを防ぎ、更に醗酵作用の美白作用が科学的に酸化ニキビ、バカスを防止するからです。

更に、お粉下、に日々止めるにも、薬用クラブ美容クリームが非常に効果的、専ら評判して、

强度木  
毛ノ含

藥用

# 出て来る若返り法



朝晩此だけは  
ご實行下さい

暗肌から若く美しな  
り度い肌へお様の痛  
切な願ひは、次のワラ  
フ本ルモン・マツサ  
法を継続されることに  
なりかねへられます

## 正しいマツサ ーチの順序

- ① 手づか、顔全面に本ル  
モン配合のクラブ・美肌  
クリームをよくのぼし、顔  
のまん中から左右へマツ  
サ。一週の間が自然に防げ  
ます。
- ② 目の廻りは、顔の方向  
指先で押すようにし、右な  
らば右へ、左なら左へマツ  
サを繰り返す。
- ③ 鼻は、鼻翼を握りやう  
に上へマツサを繰り返す  
。鼻筋に沿って鼻先の脂肪  
筋を助へて、目の隅のやを  
防ぎます。
- ④ 小鼻と口唇の部分から  
耳の方へ、少し強めにマ  
ツサを繰り返す。口唇も鼻もふ  
つくりを整しくなります。
- ⑤ 顔から顔へかけて、力  
を入れてマツサを繰り返  
す。(毎日10分、3週間や  
たふると効果的です)

**御注意**

マツサがすすみますらば  
本ルモン化粧クリームは、乳  
油、クリーム、乳液、クリーム  
をつけて使用を共にし、清潔ま

御中元の御贈答に最適な

果 實 罐 詰

ス カ ツ シ ュ

シ ラ ツ ブ

羊 羹

ウ エ フ ア ー

ビス ケ ャ ト

チヨコレート



明治製菓株式會社

コルワロ高級土耳其タバコ

ニ  
サ  
レ  
ツ  
ト



十本入三  
二十本入四  
五十本入一